

2012年度 事業報告

2012年1月1日から2012年12月31日まで

特定非営利活動法人シマフクロウ・エイド

はじめに

法人設立から5年度目は、活動の基盤となるシマフクロウの生息調査や生息地のパトロール、給餌など保護・保全・支援活動を継続して行い、その成果や問題点を、保護・調査の担い手育成や次世代の子供たちをはじめとした普及教育、支援者の関心と理解を深めるエコツアー、活動を支える理解者を広く募るPR活動に役立てた。活動の実施にあたり、町内外の賛同者や行政、自治体、企業、関連NPOや団体の支援や協力のもと、シマフクロウ・エイドが目指す「シマフクロウの生息に関係する地域が主体に関わる次世代に続く保護活動」を推進した。

<各事業の概要>

I 保護・保全・支援事業

1. 補助給餌

1) 給餌

シマフクロウの繁殖を補助する給餌の実施のために、おさかな寄付で活きたヤマメを購入し、専用給餌池へ1月から12月までに合計10回、290kgを放流し、ほぼ毎日シマフクロウが魚を食べに飛来したことを確認した。法人設立から2012年度末までの5年間における給餌量は、累計39回990kgとなった。

2) 給餌のための募金活動

「おさかな寄付」の募集をホームページ、会報、入会パンフレット等で呼びかけた結果、計410,539円106件が寄せられシマフクロウ給餌用の活魚購入費に充当した。

2. 調査・生息地パトロール

シマフクロウの保護保全活動の適切かつ効果的な実施のために、繁殖行動を把握し既存の繁殖個体について継続調査し、繁殖候補地における生息確認を行い、1月から12月までのべ356日間の調査や生息地パトロールを実施した。成果や問題点は、人材育成や環境教育、エコツアー、PR活動で、広く多くの人々への普及啓発の推進に役立てた。

1) 繁殖ペア等の行動調査及び生息地パトロール

繁殖が確認されている地域において、成鳥、幼鳥、亜成鳥の行動を継

続して観察し、繁殖生態の理解を深めデータを蓄積した。また環境の変化や繁殖に影響を及ぼす事項について注意を払う生息地パトロールを1月から12月まで計302日行った。給餌池におけるシマフクロウの利用状況調査も行い、飛来するシマフクロウの採食状況や季節ごとの行動を確認した。さらに他の大型ワシ類の飛来・採食状況を調査し、夏季以外のほぼ通年にわたりシマフクロウのための活魚を守る対策を実施した。

2) 繁殖確認調査

生息や繁殖状況の把握を行う調査を適期に8日実施した。

3) 未知繁殖地における生息確認調査

生息および繁殖が確認されていない釧路管内の4箇所で行った生息確認調査を46日実施し、1箇所で行った繁殖ペアの発見と雛の巣立ちを確認した。

4) 調査・パトロールのための募金活動

「調査・パトロール寄付」「巣箱寄付」の募集を行い、ホームページ、ブログ、会報、入会パンフレット等で呼びかけ、計564,071円41件が寄せられ、各調査や生息地パトロール代、調査備品代に充当した。

3. その他

1) 釧路総合振興局森林室の立木伐採計画予定地において、当室と事前確認を行い、周辺のシマフクロウへの影響について注意を払った。

2) シマフクロウの生息地の河畔林消失箇所において、周辺の調査を行い、来春の植林準備を進めた。

II 人材育成事業

1. 保護の担い手募集

ホームページ等で通年募集し、問い合わせに個別対応した。

2. 保護の担い手トレーニング

希望者1名に対し、生息地パトロール等の実践トレーニングを1月から12月までに53日間実施した。

III 環境教育事業

1. 地域の子どもたちに向けた環境教育

町内学校にシマフクロウをテーマとした環境教育実施申請を行った。

2. 地域内外の人々に向けた環境教育

シマフクロウの紹介やその保護活動の始まり、当会の誕生、当活動の紹介、今後の活動の取組みなどを一連の流れで約50点のパネルで紹介するパネル

展を浜中町内で 12 日間開催し、町内外約 400 名が来場し普及・啓発を推進した。開催につき、助成金においてザ・ボディショップニッポン基金、後援では認定NPO法人霧多布ナショナルトラストと浜中町教育委員会、ポスター掲示では、町内全校や釧路管内大学ほか主要機関等計 50 か所に協力を得た。

IV エコツアーリズム事業

シマフクロウが直面する問題やそれに向けた保護活動への理解と関心を深めるツアーを会員向けに募集し、2月と10月に3回実施し3名が参加した。ツアー収益の一部は、調査・パトロール費に還元しシマフクロウの保護活動に役立てた。

V PR 事業

シマフクロウが直面する問題やそれに向けた当会の保護活動を広く多くの人に知らせる普及啓発の推進と、会の支援者を増やし自主財源の確保を図る以下のPR活動に取り組んだ。

1. ホームページやSNSによる PR

ホームページやブログ、フェイスブックで活動状況を発信した。

NPO情報サイトにおいては、団体情報や活動状況を公開し、広く多くの人に当会への関心と理解を推進した。会員、寄付の募集により、会員は計 146 名となり、寄付は、オンラインクレジットサービスを新たに導入するなど計 1,356,399 円集まり用途目的別に活動に充当した。

2. 印刷物による PR

1) 会報

会員向けに会報を毎月発行し、保護活動の取り組みや旬のシマフクロウ、関連ニュース等を紹介し関心と理解を推進した。

2) 各種印刷物

地域住民への普及啓発を目的にちらしを作成し全戸に配布し、地域の希少野生動物保護について理解と関心を推進した。配布にあたり、浜中町役場、浜中町教育委員会、自治体の協力を得た。

入会パンフレットや活動概要においては、既存の設置協力先や新規設置協力先、活動 PR の場において随時広く配布した。

3. 教材による PR

当NPOの保護活動を町内外の人々にわかりやすく紹介し、関心や理解を推進するパネル等を作成するなど教材整備を行い、「シマフクロウ・エイドパネル展」で展示した。

4. その他の PR

新聞、テレビ等から会の活動について取材を受け、計 5 回対応した。以上